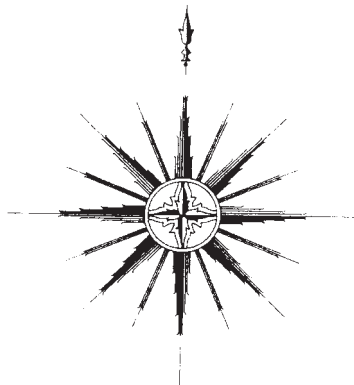


研究活動報告

(2022年4月～2023年3月)



凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

文化財論講座

上 條 信 彦

(1)現在の研究テーマ

- 東アジア先史時代の食文化・食品加工技術の研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 上條信彦『岩木山麓における弥生時代前半期の研究Ⅱ』弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター、2023年3月、共著

[論文]

- 上條信彦「弘前大学校地の近代考古学 旧第八師団司令部と旧制弘前高等学校—Tha Modern Archaeology at Hirosaki University: Former Eighth Division Headquarters and Hirosaki Old-Education-System High School」『人文社会科学論叢』13号、pp.1-28、2022年8月、共著
- 上條信彦「案内役からみた伏見宮博英の諏訪調査—特集 追悼 小松芳郎前会長」『信濃 [第3次] / 信濃史学会 編』74巻10号、pp.1099-1116、2022年10月、単著

[その他]

- 上條信彦「福田さんから頂いたモノ」『泥人形』12号、pp.11-17、2022年4月、単著
- 上條信彦「中部高地の石皿2題」『信濃考古』、pp.1-4、2022年5月、単著
- 上條信彦「古代学協会所蔵 円筒上層土器」「角田文衛博士の青森調査」『古代学協会だより『土車』』144号、pp.1、10-11、2022年6月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 柴畑光博、内山純蔵、上條信彦、スヴェン=イサクソン、ピーター=ジョーダン「巨大噴火災害を狩猟採集民はいかにして凌いだのか」日本考古学協会第88回総会、2022年5月28日～29日、共同
- 浅野溪、上條信彦「石器からみた北東北の縄文・弥生移行期の変化」日本考古学協会第88回総会、2022年5月28日～29日、単独
- 上條信彦、宇田津徹朗、米田稜、田崎博之「稲作北限域における集落と生業の展開」日本考古学協会第88回総会、2022年5月28日～29日、共同
- 上條信彦「縄文時代晩期日本東北地区の玉器制作及流通」手工业考古・山大青島国際论坛、2022年7月9日～10日、単独
- 宮田佳樹、宮内信雄、堀内晶子、上條信彦「北限の稲作地帯における土器残存脂質分析」日本文化財科学会第39回大会、2022年9月10日～11日、共同
- 田中克典、宇田津徹朗、上條信彦、田崎博之、石川隆二「プラント・オパール中の遺伝情報に基づいたイネタイプの検討(Ⅲ)」日本文化財科学会第39回大会、2022年9月10日～11日、共同
- 宇田津徹朗、上條信彦、田中克典「土壌やイネ種子からどれだけの稲作情報が引き出せるのか？」日本文化財科学会第39回大会、2022年9月10日～11日、共同
- Nobuhiko KAMIJO「The food processing during the Neolithic Age in Mongolia: Functional analyses of stone tools」NINTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN ARCHAEOLOGY、2022年6月29日～7月3日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究(B)「稲作北限域における農耕化プロセスの研究」研究代表者、2019年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究(A)「プラント・オパール中の遺伝情報を利用した稲作史研究手法の構築に向けた学際的研究」研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究(S)「東アジアにおける農耕の拡散・変容と牧畜社会生成過程の総合的研究」研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究(B)「牛馬文化の系譜と変容—動物遺体分析の限界を克服する複合的アプローチ—」研究分担者、2022年度～2025年度

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「山王囲遺跡出土資料の学術調査」栗原市教育委員会、2014年度～

杉山 祐子

(1)現在の研究テーマ

- 在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化 (FIH: Folk Innovation History, or LIH: Local Innovation History)、ODA開発プロジェクトの「その後」
- グローバル化の進展と「現金の社会化」、ジェンダー
- 北東北地域における小規模アグリビジネス

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 杉山祐子『サバナの林を豊かに生きる—母系社会の人類学』京都大学学術出版会2022年7月、単著

[論文]

- 杉山祐子「女性・ジェンダーからみるアフリカ史」『岩波講座 世界歴史18 アフリカ諸地域 ～20世紀』、pp.241-262、2022年10月、単著
- 杉山祐子「分与の経済と食の安定」『アフリカから農を問い直す：自然社会の農学を求めて』、pp.219-250、2023年2月、単著
- 杉山祐子「食料不足への対応の変化と現金獲得活動」『「現金の社会化」から「在来の技術革新史」へ：アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と在来の技術革新史への視角中間成果報告書』、pp.151-163、2023年3月、単著
- 杉山祐子「地方農村にみる現金獲得活動と「小規模」の可能性」『「現金の社会化」から「在来の技術革新史」へ』：アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と在来の技術革新史への視角中間成果報告書』、pp.101-122、2023年3月、単著
- Yuko Sugiyama「A Distinctively Human Aspect of Cooperative Food Preparation and Survival: When Food Became a Community Resource」『Extremes: The Evolution of Human Sociality』、pp.505-532、2023年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 杉山祐子「共同調理と“伝承料理”：「食べる」が多様性を生み「食べさせる」が技術の錬成につながる」「社会性の起原と進化」第17回定例研究会、2023年2月11日、東京外国語大学（府中市）、単独
- 杉山祐子「“現金の社会化”から“在来の技術革新史”へ」「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と在来の技術革新史」課題研究会、2023年3月25日～26日、弘前大学（弘前市）、単独

関根 達人

(1)現在の研究テーマ

- 縄文、中近世考古学、北方史、石造物、葬墓制

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 関根達人・菊池勇夫・手塚薫・北原モコットウナシ編『アイヌ文化史辞典』、吉川弘文館、pp.1-708、2022年6月、共編著

[論文]

- 関根達人「石厨子の基礎的研究」『日本考古学』54号、pp.19-42、2022年5月、単著
- 関根達人「玉がつなぐアイヌと和人」『アイヌのビーズ—美と祈りの二万年—』、pp.109-122、平凡社、2022年4月、単著
- 関根達人「奄美群島の古墓の地域性と年代観」『梅檀林の考古学：大竹憲治先生古稀記念論文集Ⅱ』pp.457-466、2022年12月、単著
- Сэкинэ Тацухито, Тасака Рихо（関根達人・田坂里穂）「ТРИ ЭКЗЕМПЛЯРА АЙНСКИХ МЕЧЕЙ - ДВУРУЧНЫЙ И КОРОТКИЕ МЕЧИ (蝦夷刀三例)」『ВЕСТНИК САХАЛИНСКОГО МУЗЕЯ（サハリン州立郷土誌博物館紀要）』38号、pp.135-147、2022年5月、共著
- 関根達人・中村和之・三宅俊彦・奥野進「銭を指標とした伝世タマサイの編年試案」『市立函館博物館研究紀要』33号、pp.1-42、2023年3月、共著
- 関根達人「近世・近代・現代の考古学」『青森の考古学』、青森県考古学会、pp.158-166、2023年3月、単著
- 関根達人・柴正敏・佐藤由羽人「津軽ダム遺跡群から出土した縄文土器の胎土分析」『研究紀要』28号、pp.64-74、青森県埋蔵文化財調査センター、2023年3月、共著
- 関根達人・柴正敏・佐藤由羽人「居徳遺跡出土の北陸系・中部高地系土器」『研究紀要』27号、pp.1-17、高知県立歴史民俗資料館、2023年3月、共著

[その他]

- 関根達人『国史跡山王冨遺跡の研究Ⅳ 土器編2（西区Ⅳ下層・Ⅴ上層出土土器編）』弘前大学北日本考古学研究所センター、pp.1-262、2023年3月、単著
- 関根達人・渡辺芳郎・片岡太郎・加速器分析研究所『喜界島の古墓』（科学研究費成果報告書）pp.1-244、2023年3月、共著
- 船場昌子・小久保拓也・関根達人・柴正敏『行きかう土器とヒト』（令和4年度特別展図録）八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、2023年3月、共著
- 関根達人「アイヌ研究のこれまでとこれから」『本郷』161号、pp.2-3、吉川弘文館、2023年9月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人・片岡太郎「SfMによる奄美群島の古墓の写真測量」日本考古学協会第88回総会研究発表、2022年5月29日、早稲田大学（オンライン）、共同

[講演]

- 関根達人「土器から読み解く縄文／弥生の広域交流」四国発掘へんろ、2023年2月19日、徳島県立埋蔵文化財総合センター、単独
- 関根達人「縄文人とアイヌの生業」令和4年度奥松島縄文村講演会 2022年12月18日、奥松島市コミュニティセンター、単独
- 関根達人「津軽平野の夜明け—古代中世の宗教施設と開拓—」あおもり県民カレッジ 2022年11月18日、青森県社会教育センター、単独
- 関根達人「縄文遺跡群の世界遺産登録とその展望」弘前大学大学院地域社会研究科創立20周年記念公開セミナー 2022年11月7日、弘前市土手町コミュニティパーク、単独
- 関根達人「日本海沿岸地域に残る北前船に関する石造物」金沢市主催北前船講演会「北前船が遺したもの」、2022年11月5日、金沢市ものづくり会館、単独
- 関根達人「墓石が語る江戸時代」日本石材産業協会東北地区全体会議 2022年10月26日、ホテル十和田荘、単独
- 関根達人「行きかう土器と縄文人」八戸市是川縄文館令和4年度特別展「行きかう土器とヒト」記念講演、2022年8月6日、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、単独
- 関根達人「なぜ亀ヶ岡式土器は全国各地から見つかるのか？」令和4年度第1回弘前市まいぶん講座 2022年7月17日、弘前市総合学習センター、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基盤研究B「奄美群島の葬墓制に関する考古学的研究」研究代表者、2021～2025年度
- 公益財団法人高梨学術奨励基金 特定研究助成「考古学と自然科学の融合による北日本縄文文化の研究」研究代表者、2020～2022年度
- 科学研究費基盤研究（B）「サハリンアイヌの総合的研究：その成立と変貌」研究分担者、2020年度～2023年度

宮 坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- ローマ美術における私的領域から公的領域への格上げの問題

山 田 巖 子 (山田 巖子)

(1)現在の研究テーマ

- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 佐々木達司・山田巖子・小池淳一『あおり俗信辞典』pp.1-248、青森文芸出版、2022年7月、共著
- 山田巖子「ことわざはどのように発生したか」pp.370-372「隠語と忌み言葉にはどのようなものがあるか」pp.373-375「笑い話やほら話にはどのようなものがあるか、また民俗学で世間話が注目されるのはなぜか」pp.376-379 新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』、pp.370-379、KADOKAWA、2022年8月、分担執筆
- 山田巖子「水と女の世間話—お姫坂の怪をめぐって—」小松和彦編『怪異の民俗学6 幽霊』、pp.367-387、河出書房新社、2022年10月、分担執筆
- 山田巖子・羽瀨一代・原克昭『大学生の俗信と「知識」に関する調査 報告書』、弘前大学人文社会科学部、pp.1～43、2022年12月、共著
- 山田巖子「津軽の冬の暮らしと火の民俗」『2022年度一般社団法人日本民俗建築学会誌上シンポジウム 津軽地方における

建物の諸相―津軽の冬を通して住まいを考える―』、pp.9-12、2022年11月、単著

[その他]

- 山田巖子「岡三沢神楽」『第64回 民俗芸能大会 記録』、pp.40-45、2023年1月、単著
- 山田巖子・葉山茂・他「多様な媒体による郷土資料の保存と活用に関する青森モデルの構築」『地域未来創生センタージャーナル』9号、pp.43-46、2023年2月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 山田巖子「世間話における排除と包摂」成城大学常民文化研究所共同研究「差別と排除の民俗学的研究」、2023年3月2日、弘前大学、単独
- 山田巖子・川島秀一・重信幸彦・野村敬子「危機のフォークロアと「口承」文化」日本口承文芸学会例会、2023年3月18日、オンライン、弘前大学、共同

[講演]

- 山田巖子・中田書矢・福井敏隆・山内潤紀「山車とねぶた―東北の都市祭礼と風流―」「山車とねぶた」シンポジウム、2022年7月16日、弘前市、共同
- 山田巖子「『ローカルなもの』と文化資源」大学院地域社会研究科 令和4年度公開セミナー、2022年11月7日、弘前市土手町コミュニティパーク、単独
- 山田巖子「北東北の鬼信仰―岩木山信仰の背景と担い手」岩木山を考える会 講演会、2022年12月10日、弘前市観光館、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究補助金、基盤研究B「『知識』の再配置と実践―東北の巫者と寺院をめぐる―」研究代表者、2020年度～2023年度
- 科学研究補助金、基盤研究A、研究分担者、2020年度～2023年度

片岡太郎

(1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 片岡太郎「赤連喜界高校南側古墳群4号墓の大型家形木槨ならびに木厨子の樹種同定」『令和3年度～7年度科学研究費補助金基盤(B)『奄美群島の葬墓制に関する考古学的研究』研究成果報告書1(研究代表者:関根達人)』、pp.238-239、2023年3月、単著

[論文]

- 片岡太郎、鹿納晴尚「津軽ダム関連遺跡群から出土した縄文漆器のX線CT分析」『青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要』28巻、pp.84-93、2023年3月、共著
- 片岡太郎、高橋哲「三内丸山遺跡出土木製漆塗り堅櫛の構造分析についての報告」『特別史跡三内丸山遺跡研究紀要』4巻、2023年3月、共著
- 片岡太郎、市川健夫「櫛引遺跡出土土器の赤色箇所分析結果報告」『八戸市博物館研究紀要』36巻、pp.21-29、2023年3月、共著

[その他]

- 阿部芳郎「櫛の製作」『縄文の漆と社会』、pp.13、雄山閣、2023年3月、分担執筆

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人、片岡太郎「SfMによる奄美群島の古墓の写真測量」日本考古学協会第88回(2022年度)総会、2022年5月28日～29日、早稲田大学(オンライン同時開催)、共同
- 片岡太郎「出土漆工芸品とCT」第21回保存科学クラブ、2022年6月2日、オンライン、単独

[講演]

- 高妻洋成、伊藤幸司、植田直見、栗本康司、酒井温子、星野安治、片岡太郎「木質文化財研究の歩み」2022年度木質文化財研究会例会、2022年11月26日、オンライン、共同

(4)学外集中講義など

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究（A）「石材構築文化財の保全のための3次元デジタルアーカイブの標準化の研究」研究分担者、2020年度～2024年度
- 科学研究費基金、国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））「3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用」研究分担者、2020年度～2024年度

葉山 茂

(1)現在の研究テーマ

- 漁村における資源発見と利用の通時的変化に関する研究
- 文化財の生成と活用プロセスに関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 葉山茂「出稼ぎという働き方—青森県沿岸地域を事例に一」『【文化の日は、弘前大学に行こう！】弘前大学人文社会科学部国際公開講座2022「日本を知り、世界を知る」知のダイバーシティを育む人文学 国際講座 資料集』、pp.13-27、2022年11月、単著
- 葉山茂、白石社一郎、近藤史、新永悠人、松井歩、高島克史、林彦櫻、佐々木あすか、諏訪淳一郎「研究におけるフィールドワーク調査の重要性」に関する多分野横断型研究『令和4年度弘前大学特定プロジェクト教育研究センター 地域未来創生センタージャーナル』9号pp.37-42、2023年2月、共著

[論文]

- 葉山茂「身体的経験をともなって理解する—被災現場での文化財レスキューの経験から」『フィールドワークという探索活動の可能性』、pp.18-37、2023年3月、単著
- 葉山茂「序論—多様なフィールドワークとその特性」『フィールドワークという探索活動の可能性（弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター教育研究プロジェクト「研究におけるフィールド調査の重要性」に関する多分野横断型研究報告書）』、pp.6-17、2023年3月、単著

[その他]

- 葉山茂「触ることと語り—被災資料整理の現場から—」須藤護・山田貴生・黒崎英花『民俗学の射程』、pp.23-34、晃洋書房、2022年11月、分担執筆

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 葉山茂「女性が漁船に乗る論理—青森県野辺地町の事例から—」日本民俗学会第74回年会、2022年10月1日～3日、熊本大学黒髪北キャンパス、単独

[講演]

- 葉山茂「出稼ぎという働き方—青森県沿岸地域を事例に一」弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2022「日本を知り、世界を知る」知のダイバーシティを育む人文学、2022年11月3日、弘前大学人文社会科学部棟4階 多目的ホール、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「漁業者のライフヒストリーにみる地域居住継続の要因」研究代表者、2021年度～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 受託研究「野辺地町立歴史民俗資料館収蔵資料の保存・活用に関する調査業務」研究分担者、野辺地町教育委員会、2020年度～2022年度
- 弘前大学地域未来創生センター、令和4年度地域未来創生教育研究プロジェクト「研究におけるフィールドワーク調査の重要性」に関する多分野横断型研究」研究代表者、2022年度

佐々木 あすか

(1)現在の研究テーマ

- 仏師運慶とその仏像の研究
- 古代・中世の北東北の仏像に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 佐々木あすか「瑠璃光院大日如来像と平泉周辺の菩薩形坐像」『人文社会科学部論叢』14号、pp.208-193、2023年2月、単著
 - 佐々木あすか「美術史におけるフィールドワーク —美術作品を理解すること—」『フィールドワークという探索活動の可能性 (弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター教育研究プロジェクト「研究におけるフィールド調査の重要性」に関する多分野横断型研究 報告書)』、pp.74-81、2023年3月、単著
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (C)「古代・中世北東北の仏教彫刻における造形の伝播過程解明の研究」研究代表者、2022年度～2024年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 弘前大学地域未来創生センター 令和4年度地域未来創生教育・研究プロジェクト「研究におけるフィールド調査の重要性」に関する多分野横断型研究」研究分担者、2022年度
 - 共同研究「令和4年度宮越家資料調査研究」研究分担者、2022年度

思想文芸講座

今井正浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典古代の思想文化史全般
- 古代ギリシア・ローマ期のヒトの発生理論に関する研究
- ヒッポクラテス、ガレノスに代表される古代ギリシア・ローマ期の医学者たちに関する研究
- アリストテレスの生物学に関する研究

(2)著書、論文、その他

[翻訳注解]

- 今井正浩「ガレノス『精液について』第一巻—古典ギリシア語原典からの翻訳と注解—」『人文社会科学論叢』13号、pp.77-144、2022年8月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 今井正浩「医学者ガレノスとヒトの生殖発生をめぐる論争史の系譜」日本科学史学会第69回年総会、2022年5月28日～29日、オンライン開催、単独

(6)科学研究費補助金

- 基盤研究 (C) 一般「動物の生殖発生をめぐる論争史を通してみた西洋古代の人間観の思想文化史的解明」(研究代表者) 2019～2022年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

- 弘前大学人文社会科学部国際公開講座2022「知のダイバーシティを育む人文学」2022年11月 「ソクラテスとクリトン—ギリシア哲学がわたしたちに語りかけてくるもの」

泉谷安規

(1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ
- シュルレアリスム
- 20世紀大戦間期の文学と思想

畑中杏美

(1)現在の研究テーマ

- 20世紀英文学における老いと笑いの表象
- Muriel Sparkの小説における〈悪〉と〈罪〉

原 克 昭

(1)現在の研究テーマ

- 日本思想史、中近世期の神仏習合思想を基調とする宗教文芸、神話注釈の研究

(2)著書、論文、その他

[その他、事典項目]

- 「[[通史] 中世神話・中世日本紀] pp.12-15, 「神観念」 pp.43-45, 「吉田神道と吉田家」 pp.73-79, 「呉太伯後裔説」 pp.192-194, 「日本図」 pp.221-225, 「日本紀注釈」 pp.278-282」伊藤聡, 門屋温監修『中世神道入門』、勉誠出版、2022年4月、分担執筆

(3)研究発表、講演

[講演、調査報告]

- 原克昭「津軽地域における文献資料調査活動の展開」令和4年度弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラム、2023年2月17日、弘前市民文化交流館ホール、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究(C)「中世後期から近世前期における吉田家の学問体系と神話注釈に関する神道思想史研究」研究代表者、2020~2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究(B)「[知識の再配置と実践——東北の巫者と寺院をめぐって]」研究分担者、2020~2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究(中泊町)「令和4年度宮越家資料調査研究」研究代表者、2022年度
- 受託研究(藤崎町)「令和4年度堰神社関係資料解析研究」研究代表者、2022年度

横 地 徳 廣

(1)現在の研究テーマ

- 芸術哲学、食農倫理学、公害の哲学、浄土思想、米国思想史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 佐藤香織、遠藤健樹、横地徳広『戦うことに意味はあるのか [増補改訂版]: 平和の価値をめぐる哲学的試み (共編著)』、弘前大学出版会、2023年2月、共著

[論文]

- 横地徳広「レヴィナスとハイデガー『哲学への寄与』の他者論: 渡名喜庸哲『レヴィナスの企て』の射程」『レヴィナス研究』4号、2022年9月、単著
- 横地徳広「石牟礼道子『苦海浄土』の往還道 (Odysseia): 名もなき民のエートスから脱底へ」『人文社会科学論叢』14号、2023年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 横地徳広「名もなき民の脱底と沈黙する神: 苦海の時と歴史をめぐって」2022年度日本比較文化学会・東北支部研究大会、2022年9月10日、仙台市、単独
- 横地徳広「[「パワー」概念の再検討: 現代的事例から考える]」2022年度日本比較文化学会・東北支部研究大会、2023年3月21日、仙台市、単独

王 孫 涵 之

(1)現在の研究テーマ

- 中国六朝隋唐期の義疏学
- 日本伝存の漢籍資料

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 中純夫(編) 朱子語類大学篇研究会(訳注)『朱子語類 訳注(巻十八)』汲古書院、2022年10月、共訳
- 王孫涵之(校注)『毛詩原解』崇文書局、2022年12月、単著

[論文]

- 王孫涵之「義疏概念の形成と確立」『東方学報』第97冊、2022年12月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 王孫涵之「『詩義疏』考——『毛詩草木鳥獸虫魚疏』との関係を中心として」第三回 中日古典学ワークショップ、2022年11月13日、オンライン、単独
- 王孫涵之「日本の写本文化を問い直す—清家の「証本」を例として—」「日本の伝統文化」を問い直す」研究班例会、2023年3月11日、京都大学東京オフィス、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、特別研究員奨励費「日本古代における儒教義疏の受容—東アジア教育圏の視点から—」外国人特別研究員、2022年度

コミュニケーション講座

木村宣美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学（統語論・意味論）：
 1. 右方移動現象と併合及び線形化のメカニズム
 2. 述語（動詞句）削除に対する2種類のbeに基づく分析
 3. 文体的倒置・there構文・as挿入節・比較節の節構造及び派生過程

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 木村宣美「複数の助動詞を伴う倒置文の派生」『人文社会科学論叢』第13号、pp.29-49、2022年8月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 木村宣美「倒置文：連辞 be の語彙的特性に基づく分析」名古屋言語学研究会、2023年3月18日、愛知工業大学自由ヶ丘キャンパス、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費（基金）基盤研究（C）「2種類の助動詞倒置文の基底構造と派生メカニズムの解明」（研究代表者）2020-2023年度

熊野真規子

(1)現在の研究テーマ

- 複言語・複文化教育、フランス語教育、教養教育としての教育ツーリズム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊野真規子「教室と現実の世界をつなぐために /Pour relier la classe au monde réel」『RENCONTRES』36号、pp.79-83、2022年7月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊野真規子「交流実験 2022—学生交流による地域探求とおした地域への目覚め」Rencontres Pédagogiques du Kansai 2023（第37回関西フランス語教育研究会）、2023年3月27日～28日、関西大学千里キャンパス、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「『地域への目覚め』を介した日本型複言語・複文化教育モデルと複文化教育交流実験検証」研究代表者、2020～2023年度

小野寺 進

(1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

新 永 悠 人

(1)現在の研究テーマ

- 北琉球諸語の文法、言語類型論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 新永悠人「記述言語学においてフィールドワークが必要となる条件」『フィールドワークという探索活動の可能性』、pp.65-73、2023年3月、単著

[その他]

- 杉山祐子『サバンナの林を豊かに生きる：母系社会の人類学』、京都大学学術出版会、2022年7月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 新永悠人「意味地図による諸言語の複数形の多義の分析」日本語学会2022年度春季大会、ワークショップ0、2022年5月15日、オンライン開催、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究「奄美大島宇検村内の隣接する多地点方言間の体系的差異の解明」研究代表者、2018年度～2022年度

堀 智 弘

(1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究、奴隷制文学

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 堀智弘「文学理論の道標を掘り起こすーアイヴァー・A・リチャーズ著、村山淳彦訳『レトリックの哲学』（未來社、2021）』『NEW PERSPECTIVE』215号、pp.37-39、2022年7月、単著
- 堀智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第十三章～第十四章』『人文社会科学論叢』13号、pp.1-20、2022年8月、単著
- 堀智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第十五章～第十六章』『人文社会科学論叢』14号、pp.69-85、2023年2月、単著

楊 天 曦

(1)現在の研究テーマ

- 中国当代小説研究

高 内 悠 貴

(1)現在の研究テーマ

- アメリカ帝国史、ジェンダー・セクシュアリティの歴史

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 藤永康政、松原宏之「第7章 ジェンダーでみる国際関係史——軍事・外交」『いま』を考えるアメリカ史』、ミネルヴァ書房、2022年9月、分担執筆
- 遠藤泰生、小田悠生「歴史の扉20 アメリカのLGBT運動の現在とこれから」『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』、pp.341-345、ミネルヴァ書房、2023年1月、分担執筆

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Yuki Takauchi「Negotiating with US and Okinawan Patriarchies: A Women's History of the Koseki System In Occupied Okinawa」若手アメリカ研究者国際フォーラム、2022年12月17日～18日、単独

中野 顕正

(1)現在の研究テーマ

- 能楽作品の注釈的研究
- 當麻曼陀羅および曼陀羅縁起の發達史的研究

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 中野顕正「能《国栖》の構想」能楽学会 第21回大会、2023年3月25日、法政大学、単独

国際社会講座

城本 るみ

(1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「地域特性を視座とする新たな提言のためのハンセン病療養所将来構想の比較研究」研究代表者、2019年度～2023年度

荷見 守義

(1)現在の研究テーマ

- 中国明代史、東アジア近世史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 荷見守義「災害と賑恤の間—明代における災害環境と政策対応—」『人文研紀要（中央大学人文科学研究所）』103号、pp.35-76、2022年9月、単著
- 荷見守義「崇禎十二年の制勅房における勅書生成と呉三桂」『中央大学アジア史研究』47号、pp.163-191、2023年3月、単著

(4)学外集中講義など

- 学外模擬講義 荷見守義「「律令」ではなく「律例」の世界～中国法制研究史上の空白に挑む意味～」2022年10月6日、岩手県立盛岡第二高等学校

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般「明清交替期における辺境統治の様態—皇帝側近官僚の辺境派遣をめぐる中央と地方—」研究代表者、2022年度～2025年度

亀谷 学

(1)現在の研究テーマ

- イスラーム世界におけるカリフ制と統治システム
- イスラーム世界における貨幣と史料論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 亀谷学「初期イスラーム時代の史料論と西アジア社会」『「西アジアとヨーロッパの形成：八～一〇世紀」（岩波講座世界歴史8）』、pp.223-244、2022年6月、単著

[その他]

- 亀谷学、大塚修、松本隆志「イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注（4）」『人文社会科学論叢』14号、pp.45-70、2023年2月、共著
- フロセル・サバテ著、阿部俊大監訳「アラゴン連合王国における領域、権力、制度」『アラゴン連合王国の歴史』、pp.25-65、明石書店、2022年9月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 亀谷学『『クルアーン』とその周辺の見取り図』比較宗教教典研究プロジェクト第14回研究会、2022年5月20日、オンライン、単独
- 亀谷学「スウィフティーンの戦いと歴史叙述」第三回中世中東史料研究会、2022年8月23日～25日、弘前大学、単独
- 亀谷学「初期イスラーム時代カリフ政権と書物としてのクルアーン」日本オリエント学会第64回年次大会、2022年10月29日～30日、東京大学駒場キャンパス、単独

澤田 真一

(1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 澤田真一「対話の森」『地域未来創生センタージャーナル』第9号、pp.51-56、2023年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 澤田真一「対話の思想：プーバーから」第2回対話の森シンポジウム、2022年11月23日、弘前大学、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 弘前大学地域未来創生センター、地域未来創生教育・研究プロジェクト「対話の森—多様な人材が活躍できる地域社会を考える—」研究代表者、2022年度
- 科学研究費基金、基盤研究(C)「ニュージーランドのマオリ文学の重層的構造についての考察」研究代表者、2022年度～2024年度

中村 武司

(1)現在の研究テーマ

- 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 中村武司「長い18世紀イギリスにおける軍人・議会・選挙区(3・完)」『人文社会科学論叢』13号、pp.51-75、2022年8月、単著
- 中村武司「イギリス史研究におけるパブリック・ミーティング——研究の現状と課題」『パブリック・ヒストリー』20号、pp.1-16、2023年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 中村武司「長い18世紀イギリスにおける軍人と議会エリート」「イギリス本国史・帝国史の統合と財政軍事国家論の再考」第3回研究会、2023年3月24日、単独

(4)学外集中講義など

- 集中講義「西洋史」、ノースアジア大学経済学部、2023年2月28日～3月3日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤(C)「イギリス本国史・帝国史の統合と財政軍事国家論の再考」、研究代表者、2020年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤(B)「オーストラリアの世論形成の歴史的解明：自然言語処理による公開集会データの分析」、研究分担者、2019年度～2022年度

BUTLER ALASTAIR JAMES

(1)現在の研究テーマ

- コーパス言語学、応用言語学、プログラミング言語

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 吉本啓、バルデシ ブラシャント、長崎郁、Alastair J. Butler「NINJAL Parsed Corpus of Modern Japanese の構築と公開」『自然言語処理』29巻3号、pp.1015-1022、2022年9月、共著
- タロック カラム、竹内孔一、バトラー アラスティア、長崎郁、バルデシ ブラシャント「深層学習を利用した PropBank 形式

の日本語意味役割付与モデル」『言語処理学会 第29回年次大会 発表論文集』、pp.2419-2421、2023年3月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Alastair Butler 「Constraining parse ambiguity with grammatical codes」 Logic and Engineering of Natural Language Semantics 19 (LENLS19)、2022年11月19日～21日、Hybrid (Ochanomizu University and Online)、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C) 「Developing a program for language teaching with parsed corpora」 研究代表者、2019年度～2022年度

林 明

(1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 林明 「Mahatma Gandhi: The Japanese Connection」 『Bombay Sarvodaya Mandal公式ウェブサイト』、2023年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 林明 「ガンディーの「ヒンド・スワラージ」思想の日本的展開」 第153回マハトマ・ガンディー翁生誕日の集い、2022年10月2日、単独

FUHRT VOLKER MICHAEL

(1)現在の研究テーマ

- 日本と東アジアにおける歴史認識
- ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

永本 哲也

(1)現在の研究テーマ

- 初期宗教改革期北西ドイツ、低地地方における宗教改革支持者の宣教方法と効果

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 永本哲也 「1530年代前半下ライン地方宗教改革運動における宣教活動—福音派聖職者ギスベルト・ファン・ラートハイムを中心に」 『人文社会科学論叢』 14号、pp.21-44、2023年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 永本哲也 「『Reformation』の訳語「宗教改革」の確立過程」 キリスト教史学会第73回大会、2022年9月12日～13日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C) 「初期宗教改革期における宣教の方法と効果:超地域的な人間関係のネットワークを中心に」 研究代表者、2021年度～2025年度

古川 祐貴

(1)現在の研究テーマ

- 日本近世史、近世日朝関係史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 古川祐貴 「対馬藩主図書考」 『訳官使・通信使とその周辺』 7号、pp.1-18、2023年3月、単著

[その他]

- 古川祐貴 「書評: 酒井雅代 『近世日朝関係と対馬藩』 吉川弘文館、2021年2月、270頁」 『歴史学研究』 1025号、pp.41-44、2022年8月、単著
- 古川祐貴 「書評: 程永超 『華夷変態の東アジア—近世日本・朝鮮・中国三国関係史の研究—』 清文堂出版、2021年10月、

382頁』『日本歴史』895号、pp.98-100、2022年11月、単著

- 須田牧子・古川祐貴「蔣洲咨文の来歴」『古文書研究』94号、pp.113-122、2022年12月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 古川祐貴「江戸藩邸由来対馬宗家文書の伝来—明治・大正期における養玉院保管分の売立・売却—」令和4年度 弘前大学 國史研究会大会、2022年11月6日、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール、単独
- 古川祐貴「対馬に帰ってきた宗家文書—宗義成・宗義質口宣案の流転—」広がる！対馬歴史研究—対馬藩から見る江戸時代の日本—、2022年12月10日、対馬市交流センター、単独
- 古川祐貴「対馬藩主図書・児名図書考」第16回「訳官使・通信使とその周辺」研究会、2023年1月19日、オンライン、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「分散型大規模大名家史料群の高度学術資源化と地域還元」研究分担者、2019年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「通信使と訳官使の統合的研究—17-19世紀東アジア国際秩序と構造の視座転換—」研究分担者、2019年度～2022年度
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に」研究分担者、2020年度～2022年度
- 弘前大学新任教員研究スタートアップ支援事業「幕末維新期に流通した銃火器の給源に関する学際的研究」研究代表者、2022年度
- 科学研究費基金、若手研究「対馬宗家文書の研究資源化に関する研究」研究代表者、2022年度～2026年度

情報行動講座

大橋 忠宏

(1)現在の研究テーマ

- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
- 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 大橋忠宏「青森県津軽地方における公共交通の現状と課題」公益事業学会北海道・東北部会、2022年9月4日、岩手県立大学アイーナキャンパス（盛岡市）、単独

羽 淵 一 代

(1)現在の研究テーマ

- 親密性と近代化
- 高度情報化とメディア文化の成熟

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 羽淵一代「マッチングアプリ利用と若者の出会い——モバイル社会の20年（3）」第95回日本社会学会、2022年11月12日～13日、追手門学院大学、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「モバイル化社会の実態解明と将来構想に関する社会学的実証研究」研究分担者、2020年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「パートナーの親密関係の変容に関する実証研究」研究分担者、2020年度～2023年度

日比野 愛 子

(1)現在の研究テーマ

- 先端科学技術の表象、社会的成立過程

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 竹内, 昌治, 日比野, 愛子 『培養肉とは何か?』、岩波書店、2022年12月、共著

[論文]

- Aiko Hibino, Futoshi Nakamura, Mai Furuhashi, Shoji Takeuchi 「How can the unnaturalness of cellular agricultural products be familiarized?: Modeling public attitudes toward cultured meats in Japan」『Frontiers in Sustainable Food Systems』7巻、pp.1129868-、2023年2月、共著
- HAO Zhechen, 日比野愛子 「BMI (ブレイン・マシン・インタフェース) の報道に関する日中比較分析」『科学技術社会論研究』21号、pp.89-105、2023年2月、共著

[その他]

- 日比野愛子 「クライシス状況におけるコミュニケーションの諸相：新型コロナ、自然災害、原子力事例への横断的コメント」『科学技術社会論研究 = Journal of science and technology studies / 科学技術社会論学会編集委員会 編』20号、pp.34-40、2022年7月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 日比野愛子 「持続可能社会に向けた細胞農業技術のELSI/RFIの検討」第4回細胞農業会議（於：日本橋ライフサイエンスビルディング）、2022年8月29日、東京都、単独
- 日比野愛子, 古橋麻衣, 相部かおり, 竹内昌治 「培養肉の理解における技術情報の影響」日本社会心理学会第63回大会（於：京都橘大学）、2022年9月14日～15日、京都、共同
- 日比野愛子 「培養肉をめぐる市民の問題意識」「細胞を創る」研究会 15.0（於：東京工業大学蔵前会館）、2022年10月17日～18日、東京都、単独

[講演]

- 日比野愛子 「培養技術の進化と世界が目注するELSI視点」SKS JAPAN 2022（於：東京ポートシティ竹芝 ポートホール）、2022年9月1日、東京都、単独
- 日比野愛子 「細胞農業技術のELSI/RFI研究プロジェクトの紹介」公開研究会「科学技術のELSIをめぐる最近の展開」（於：神戸大学）、2023年3月15日、単独

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B) 「科学実践の基盤的活動とシャドウ・ワーク：科学社会学からのフレームワーク構築」研究代表者、2020年度～2023年度

増 山 篤

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 増山篤 「Pythonによる道路ネットワーク距離に基づく空間アクセシビリティ分析の可能性」『GIS - 理論と応用』30巻1号、pp.11-18、2022年6月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 増山篤 「経路ネットワークに対する前処理による時空間アクセシビリティ計算の効率化とその実装」2022年日本地理学会秋季学術大会、2022年9月23日～25日、香川県高松市（香川大学）、単独

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C) 「人間の認知・判断プロセスを組み入れ、かつ、実用的な時空間アクセシビリティ指標」研究代表者、2020年度～2023年度

古 村 健太郎

(1)現在の研究テーマ

- 親密な関係の維持と崩壊
- 恋人間暴力の予防教育とその評価
- 成人のアタッチメント理論

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 古村健太郎「恋愛」『人間の許容・適応限界事典』、pp.562-566、朝倉書店、2022年11月、分担執筆
- 松井豊・相羽美幸・古村健太郎・仲嶺真・渡邊寛「性教育や恋愛関係を対象とした教育」『恋の悩みの科学 データに基づく身近な心理の分析』、pp.131-147、福村出版、2023年3月、共著
- 松井豊・相羽美幸・古村健太郎・仲嶺真・渡邊寛「恋人間の暴力・ストーキング」『恋の悩みの科学 データに基づく身近な心理の分析』、pp.115-130、福村出版、2023年3月、共著
- 松井豊・相羽美幸・古村健太郎・仲嶺真・渡邊寛「失恋」『恋の悩みの科学 データに基づく身近な心理の分析』、pp.74-90、福村出版、2023年3月、共著
- 松井豊・相羽美幸・古村健太郎・仲嶺真・渡邊寛「相手へののめり込み」『恋の悩みの科学 データに基づく身近な心理の分析』、pp.57-73、福村出版、2023年3月、共著

[論文]

- Yuji Kanemasa, Ryosuke Asano, Kentaro Komura, Yuki Miyagawa 「The longitudinal associations between personality traits and psychological intimate partner violence」『Journal of Marriage and Family』85巻1号、pp.55-71、2022年7月、共著
- Souma T, Komura K, Arai T, Shimada T, Kanemasa Y 「Changes in Collective Efficacy's Preventive Effect on Intimate Partner Violence during the COVID-19 Pandemic.」『International journal of environmental research and public health』19巻19号、2022年10月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 相羽美幸、菅原大地、翠川晴彦、古村健太郎、櫛引夏歩、白鳥裕貴、川上直秋、太刀川弘和「コロナ禍における孤独感と社会的孤立」日本心理学会第86回大会、2022年09月08日～2022年09月11日、共同
- 謝新宇、相馬敏彦、古村健太郎、金政祐司「愛着傾向が親密な関係での相互作用への評価に与える影響経験サンプリング法を用いて」日本心理学会第86回大会、2022年09月08日～2022年09月11日、共同
- 相馬敏彦、古村健太郎、金政祐司、謝新宇「親密な相手からのひどい仕打ちを無害化するとき—ペアを対象とする経験サンプリング調査による検証」日本心理学会第86回大会、2022年09月08日～2022年09月11日、共同
- 古村健太郎、目黒有紀「「あごとかわいい」が表象する性役割」日本心理学会第86回大会、2022年09月08日～2022年09月11日、共同
- 古村健太郎、相馬敏彦、金政祐司、謝新宇「コミットメントがもたらすパートナーの行為への評価バイアス—経験サンプリング法を用いた日常的相互作用についての検討—」日本社会心理学会第63回大会、2022年09月14日～2022年09月15日、共同
- 浅野良輔、金政祐司、古村健太郎、伊藤健一「あなたが幸せなら私も幸せ—北米人夫婦の縦断ペアデータによる検討—」日本社会心理学会第63回大会、2022年09月14日～2022年09月15日、共同
- 神谷哲司、古村健太郎「ファイナンシャル・リテラシーと夫婦関係満足—夫婦ペアデータによるマルチレベル構造方程式モデリングによる検討」日本発達心理学会第33回大会、2023年03月03日～2023年03月05日、共同

[講演]

- 島田貴仁、高木大資、古村健太郎、讚井知・浦光博、中谷友樹「地域での犯罪予防—研究者と実務家の協働に基づく新たな地域介入の可能性」日本心理学会第86回大会、2022年09月08日～2022年09月11日、共同、話題提供者
- 久保田愛子、三和秀平、古村健太郎、徳岡大、伊藤君男「大学での心理教育における新たな潮流」日本パーソナリティ心理学会オンラインシンポジウム、2023年03月18日、共同、話題提供者

(4)学外集中講義など

- 「心と身体A」「心理学」弘前学院大学、2022年9月1日～2023年3月31日
- 秋田県立角館高等学校 大学模擬講義、2022年7月7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「DVのエスカレートを防ぐ：関係性への予防科学的アプローチ」研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「青少年の日常生活実態の様相からみる効果的な性教育の在り方についての検討」研究分担者、2022年度～2025年度

花 田 真 一

(1)現在の研究テーマ

- 実証産業組織論、エネルギー経済学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 花田真一、平井太郎「Well-Beingをどう分析すれば地域政策に資するのか」『弘前大学人文社会科学論叢』13巻、pp.145-159、2022年8月、共著

松 井 歩

(1)現在の研究テーマ

- 地域漁業をめぐる社会—生態的变化と適応

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 松井歩、崎田誠志郎、佐川正人「フィールド観測とGPSによる漁場利用調査の実践」『日本地理学会発表要旨集』102巻、pp.255-255、2022年9月、単著

[論文]

- 崎田誠志郎、松井歩「北海道南西部におけるナマコブームへの多様な適応・活用戦略」『地域漁業研究』62巻1号、pp.19-30、2022年5月、共著

[その他]

- 松井歩「重なり合う合意」『水面上の生命』、TBTI GLOBAL、2022年5月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 松井歩、崎田誠志郎、佐川正人「フィールド観測とGPSによる漁場利用調査の実践：北海道寿都町のナマコ漁業を事例として」日本地理学会2022年秋季学術大会、2022年9月23日～25日、共同

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「順応的漁場環境ガバナンスにおける村落と家族」研究分担者、2020年度～2023年度
- 科学研究費基金、研究活動スタート支援「縮小再編成期の小規模漁業が経験する社会—生態的变化の解明」研究代表者、2021年度～2022年度

ビジネスマネジメント講座

加 藤 恵 吉

(1)現在の研究テーマ

- 国際課税、デッドファイナンスが企業価値にもたらす影響、自然栽培農業者のマネジメント

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 加藤恵吉「むつ市第三セクター法人経営の現状と課題—脇野沢農業振興公社及びむつ市のインタビュー調査から—」『地域社会研究科 年報』19号、pp.33-42、2023年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 加藤恵吉・黄孝春「自然栽培米を用いた差別化戦略—すし遊館の事例—」弘前大学地域未来創生センターシンポジウム、2023年1月21日、Zoom

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 公益財団法人 牧誠財団「自然力依存型の農業を営む組織の経営及びマネジメント・コントロール・システムの研究」研究代表者、2021年度～2022年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「令和4年度弘前大学人文社会科学部未来創生センターシンポジウム」2023年1月21日、Zoom開催

森 樹 男

(1)現在の研究テーマ

- 日系多国籍企業の地域統括本社制
- 北欧の地域活性化モデルと青森県
- 地方企業における商品開発とデザイン
- 観光ビジネスと地域活性化

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 森樹男, 「じょっぱり起業家とは」, 森樹男・熊田憲・高島克史・大倉邦夫・林彦櫻編著『青森からはばたく!! じょっぱり起業家群像Ⅱ』弘前大学出版会, 2022年10月28日, pp.1-7

[その他]

- 森樹男, 山内史子, 奥平理, 大西達也『ラムダの教科書1』津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議, 2023年2月, 共著
- 森樹男『弘前大学人文社会科学部ビジネス戦略実習 課題解決型学習と学生の主体的な学び—大学生のチャレンジ2022—報告書』弘前大学人文社会科学部, 2023年3月, 共著
- 森樹男『弘大じょっぱり起業家塾2022 実施報告書』弘前大学, 2023年3月, 単著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 森樹男「地域の魅力創出と発信」, 令和4年度むつサテライトキャンパス「観光講座」, 2023年3月19日, 下北文化会館, 単独

(4)学外集中講義など

- 青森高等学校ドリーム講座「観光DXと地域活性化～KKD(経験・勘・度胸)からDMO(観光地域づくり法人)へ～」, 青森高校, 2022年10月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金, 基盤研究(C)「地域経済統合の後退が多国籍企業の組織に与える影響—欧州地域統括本社を中心に—」研究代表者, 2019年度～2021年度(2023年度まで延長)
- 科学研究費基金, 基盤研究(B)「疎空間においてイノベーションを生み出すビジネス・エコシステムの探索と理論構築」研究代表者, 2022年度～2025年度

(7)共同研究、受託研究など

- 寄附金「JR東日本寄附講義」JR東日本, 2015年度～
- 受託事業「ラムダの教科書作成」青森県, 2022年度

保田宗良

(1)現在の研究テーマ

- 地域医療の質的向上と医療マーケティングシステムの構築

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 保田宗良「医療マーケティング研究の論点整理とそれらの考察」『人文社会科学論叢』13号, pp.161-170, 2022年8月, 単著
- 保田宗良「With コロナを考慮した医療サービス活動の進め方—調剤薬局の諸活動の考察—」『産業経済研究』23号, pp.85-94, 2023年3月, 単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 保田宗良「医療、介護サービスを包括した健康まちづくりについての考察」日本消費経済学会全国大会, 2022年7月10日, オンライン, 単独
- 保田宗良「With コロナを考慮した医療サービス活動の進め方」日本産業経済学会全国大会, 2022年9月2日, オンライン, 単独
- 保田宗良「医薬品流通業者のサービス革新について」日本流通学会北海道・東北部会研究会, 2022年9月28日, オンライン, 単独
- 保田宗良「調剤薬局の健康サポート活動についての考察—調剤薬局との共同研究で得られた知見—」日本消費経済学会東日本大会, 2022年12月17日, オンライン, 単独
- 保田宗良「調剤薬局を活用した健康まちづくりの考察」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会, 2023年3月19日, 弘前大学, 単独

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 消費者フォーラム in HIROSAKI、弘前大学人文社会科学部、教育学部、青森県消費者協会共催、2023年1月21日

[それ以外のもの]

日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、弘前大学人文社会科学部演習室、2023年3月19日

大 倉 邦 夫

(1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 森樹男、熊田憲、高島克史、大倉邦夫、林彦櫻『青森からはばたく!! じょっぱり起業家群像Ⅱ』弘前大学出版会、2022年10月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 大倉邦夫「令和4年度地域未来創生センターフォーラム「総合政策研究部門における地域社会を対象とした研究成果」」令和4年度地域未来創生センターフォーラム「地域未来創生センターの挑戦」一産官学による持続可能な地域連携をめざして一、2023年2月17日、青森県弘前市、単独

熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングのプラットフォームの変容とその影響」『地域未来創成センタージャーナル』9号、pp.13-22、2023年2月、共著

[その他]

- 森樹男、熊田憲、高島克史、大倉邦夫、林彦櫻『青森からはばたく!! じょっぱり起業家群像Ⅱ』弘前大学出版会、2022年10月、共著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「疎空間においてイノベーションを生み出すビジネス・エコシステムの探索と理論構築」研究分担者、2022年度～2025年度

高 島 克 史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論、ベンチャー企業論

内 藤 周 子

(1)現在の研究テーマ

- 会計学、財務会計、IFRS、国際財務報告、公会計、農業会計

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 内藤周子「農業法人を取り巻く広範な利害関係者に関する情報開示事例 —Beer Experience株式会社への開取調査を基礎として—」『弘前大学経済研究』45号、pp.1-11、2022年12月、単著
- 内藤周子「IFRSにおける利益情報の集約及び分解に関する開示思考」『人文社会科学論叢』14号、pp.149-160、2023年2月、単著
- 内藤周子「地域に根ざした企業におけるクラウド会計活用事例—青森県三八上北地方と世界を繋ぐ中小企業—」『産研論集』50号、pp.17-24、2023年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 内藤周子「デジタル技術を活用する中小企業におけるクラウド会計の活用」中小企業会計学会第10回全国大会、2022年11月12日、明治大学、単独
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 公益財団法人牧誠財団、2021年度第一次研究助成「自然力依存型の農業を営む組織の経営及びマネジメント・コントロール・システムの研究」研究分担者、2021年度～2022年度
 - 令和4年度公益財団法人青森学術文化振興財団助成金、「経験学習による会計教育に関する公開講座開催事業」研究代表者、2022年度
 - 科学研究費基金、基盤研究(C)「デジタル社会に求められる職業会計士の役割・能力と今後の会計教育のあり方」研究分担者、2021年度～2024年度
 - 科学研究費基金、基盤研究(C)「デジタル技術を活用する農業者の会計スキルと会計教育」研究代表者、2022年度～2024年度

商 哲

(1)現在の研究テーマ

- バランススコアカードの継続運用

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 商哲「BSCと他のMASとの同時運用におけるコントロールのメカニズムの解明」『人文社会科学論叢』13号、pp.171-184、2022年8月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 商哲「COVID-19のもとでのBSC運用企業における情報システムの利用」日本管理会計学会2022年度第2回フォーラム、2022年7月16日、専修大学神田校舎、単独
- 商哲「BSC運用企業の変化への対処プロセスの解明」日本管理会計学会2022年度年次全国大会、2022年8月29日～31日、明治大学駿河台キャンパス、単独
- 商哲「管理会計チェンジとスタビリティとの関係の解明」日本原価計算研究学会第48回全国大会、2022年9月6日～8日、ZOOM、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 公益財団法人 牧誠財団、研究助成A「BSC運用における影響要因の変化と変化による企業の対応に関する研究」研究代表者、2021年度～2022年度
- 公益財団法人 牧誠財団、研究助成A「COVID-19に直面したBSC運用企業における情報システムの活用の特徴」研究代表者、2022年度

林 彦 櫻

(1)現在の研究テーマ

- 小売業の歴史的研究
- 零細企業・自営業の研究
- 起業活動の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 林彦櫻「安定成長期における中小小売業の事業転換」『人文社会科学論叢』13号、pp.185-204、2022年8月、単著
- 林彦櫻「青森県における起業活動の現状と課題」『人文社会科学論叢』14号、pp.161-172、2023年2月、単著
- 林彦櫻「戦後日本における零細小売商の家族経営と商業婦人の役割——1950年代後半から1980年代初頭を中心に」『歴史と経済』257号、pp.37-54、2022年10月、単著

[その他]

- 森樹男、熊田憲、高島克史、大倉邦夫、林彦櫻「第1部第2章「歴史から見た日本の起業家活動」の執筆と第2部第4章「法人化から3年で年商3倍へ～1億円農業 株式会社アグリーンハート 佐藤拓郎氏」の編集」『青森からはばたく!!じょっぱり起業家群像II』、pp.8-23、122-143、弘前大学出版会、2022年10月、共著

- 林彦櫻「経済史・経営史におけるフィールドワークの意義」葉山茂，白石社一郎，近藤史，松井歩，新永悠人，佐々木あすか，高島克史，林彦櫻，諏訪淳一郎編『フィールドワークという探索活動の可能性』、pp.87-95、地域未来創生センター、2023年3月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Yanying Lin 「the Decline of Small Retailers in Japan after the mid-1980s」EBHA Annual Congress 2022、2022年6月22日～24日、Madrid、単独
- Yanying Lin 「The Voluntary Chain Policy in Japan's High-growth Period」Industrial Policy and Technology Transfer in East Asia during the Cold War: A Comparative History、2022年9月2日～3日、online、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究「零細小売業の衰退に関する歴史的研究」研究代表者、2020年度～2023年度
- 弘前大学地域未来創生センター、地域未来創生教育・研究プロジェクト「[研究におけるフィールド調査の重要性]に関する多分野横断型研究」研究分担者、2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究(B)「疎空間においてイノベーションを生み出すビジネス・エコシステムの探索と理論構築」研究分担者、2022年度～2025年度

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「地域経済の活性化に向けた創業・起業支援のあり方について」研究代表者、青森県信用保証協会、2022年度

経済システム講座

李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 李永俊、花田真一「地方大学における地域志向教育の教育効果を検証する」『地域未来創生センタージャーナル』9号、pp.5-12、2023年2月、共著
- Aapo Jumppanen, Toni Ahvenainen, Urszula Ala-Karvia, Shinichi Hanada, Markku Mattila, Mitsuaki Hasegawa, Fumihiko Koyata, Young-Jun Lee, Sang-Woo Park, Mika Raunio, Erkki Valimaki 「Has COVID-19 affected urban-to-rural and rural-to-urban migration patterns?」『Finnish Journal of Rural Studies』30巻2号、pp.39-45、2022年10月、共著

[その他]

- 李永俊、花田真一「第1章、第3章、第4章」『令和3年大学生の地元意識と就業に関する意識調査報告書』、pp.1-4、35-44、45-54、弘前大学人文社会科学部、2022年6月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李永俊「市民参加で作る日韓文化交流の場「話してみよう韓国語青森大会」—留学生と市民の協働の力—」2022日本東北地域韓国語教育者シンポジウム、2022年9月17日、駐仙台韓国教育院、単独
- 李永俊「地域志向教育の教育効果について」地域未来創生政策科学研究会、2022年11月16日、弘前大学、単独
- 李永俊「中間支援団体みらいねっと弘前の挑戦」2022ウイスンイ郡新活力プラスセミナー、2022年12月8日、韓国ウイスンイ郡総合福祉館大ホール、単独
- 李永俊「先進的な自治体の取り組み報告—秋田市—」令和4年度地域未来創生センターフォーラム データサイエンスで除雪を科学する、2022年12月16日、弘前大学、単独
- 李永俊「独居・孤食・孤立が高齢者の健康に及ぼす影響について」地域未来創生政策科学研究会、2023年2月15日、弘前大学、単独

[講演]

- 李永俊「弘前市における現状とそれを支える地域活動の取り組み」子どもの居場所づくり実践研修会、2022年9月10日、弘前市、単独
 - 李永俊「こどもの居場所のでつながりを作る」「こどもの居場所」ネットワークミーティング、2022年9月13日、弘前市総合学習センター、単独
 - 李永俊「こどもの居場所」のでつながるを作る」「こどもの居場所」ネットワークミーティング、2022年11月1日、五所川原市、単独
 - 李永俊「心の健康について」令和4年度 市民児協生活福祉部会委員研修、2022年11月17日、弘前市、単独
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「地域志向教育が地域愛着と就職地選択行動に及ぼす影響」研究代表者、2020年度～2023年度

飯島裕胤

(1)現在の研究テーマ

- 応用理論経済学、企業金融論、ファッション・ブランドの経済分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 飯島裕胤、家田崇「ファッションライセンス契約におけるエージェンシー費用」『人文社会科学論叢』第13号、pp.205-220、2022年8月（査読あり）

黄孝春

(1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、自然栽培の経営分析、農産物知財マネジメント

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 黄孝春「りんご新品種における知的財産権—世界の趨勢と日本の課題」『青森県りんご産業を支えた品種と最近の品種を巡る状況』69号、pp.43-51、2022年5月、単著
- 加藤、黄、内藤「地域未来創生センターフォーラム 自然栽培を学問する」『地域未来創生センタージャーナル』第9号、pp.77-82、2023年2月、共著
- 加藤、黄、内藤、商「自然栽培法による農産関係者の利益向上の可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』第9号、pp.33-36、2023年2月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 黄孝春「香港における県産食品輸出の可能性について」令和4年度第2回香港食品ビジネスセミナー、2023年1月17日、青森市、単独
- 加藤恵吉・黄孝春「自然栽培米を用いた差別化戦略—すし遊館の事例」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターシンポジウム、2023年1月21日、弘前大学、共同
- 黄孝春「自然栽培はどこまで普及できるのか」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターシンポジウム、2023年1月21日、弘前大学、単独
- 黄孝春「農産物知財マネジメント—りんごを事例に—」グローバル地域研究会、2023年3月10日、鹿児島国際大学、単独

[講演]

- 黄孝春「GLOBALG.A.Pと青森」GLOBALG.A.P. Tour Stop in Fujisaki、2022年12月9日、青森県藤崎町、単独

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2023年2月12日～15日ベトナムホーチミン市出張

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「りんご産業における品種経営およびその導入に関する基礎的研究」研究代表者、2020年度～2023年度
- 公益財団法人 牧誠財団「自然力依存型の農業を営む組織の経営及びマネジメント・コントロール・システムの研究」研究分担者、2021年度～2022年度

- 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター「自然栽培法による農業関係者の利益向上の可能性を高めるための施策」研究分担者、2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「りんご新品種の調査とその特性分析」研究代表者、株式会社津軽りんご市場、2021年度～2022年度

福田進治

(1)現在の研究テーマ

- 日本のリカードウ研究史

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 福田進治「2022年度消費者教育推進事業の概要」『中高大連携による消費者教育推進事業の実践モデルの構築』（2022年度弘前大学人文社会科学部・教育学部消費者教育推進事業報告書）、pp.1-4、2023年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 福田進治「福田徳三のリカード研究」第46回リカードウ研究会、2022年12月26日、立教大学、単独
- 福田進治（代表者）、益永淳、石井稔、竹永進、田淵太一、若松直幸、山倉和紀、鳴瀬成洋、佐々木憲介「リカードウ研究の現段階—2000年以降の新展開と今後の可能性—」2003年度経済学史学会大会セッション「リカードウ研究の現段階」準備会、2023年3月27日、立教大学、共同

[討論]

- 福田進治「古谷 豊：J.ステュアートの standard of taste と standard of subsistence —奢侈的な豊かさは幸福を意味するか—」、第75回経済思想研究会、2022年8月19日、山形大学（オンライン開催）

[講演]

- 福田進治「経済学の歴史と現代」令和4年度弘前大学説明会、2022年8月22日、大館鳳鳴高等学校、単独
- 福田進治「大学における金融経済教育の取り組み事例—ライフサイクルゲームを用いて—」消費者教育懇談会、2022年11月23日、弘前大学、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（A）「リカードウ・マルサス論争と古典派経済学の展開：その交錯と対抗および現代性の研究」研究分担者、2017～2022年度
- 基盤研究（C）「戦間期以降の日本のリカードウ研究史の全体像を再構成する研究」研究代表者、2020～2024年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 消費者教育懇談会（弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会）、2022年11月23日、弘前大学
- 消費者フォーラム in HIROSAKI（弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会）、2023年1月21日、弘前大学

[それ以外のもの]

- 第43回経済学史学会東北部会例会、2022年4月23日、弘前大学（オンライン開催）

細矢浩志

(1)現在の研究テーマ

- EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 細矢浩志「欧州自動車産業の電動化戦略の実状と今後の展望」『月刊・車載テクノロジー』第75号、pp.58-63、2022年5月、単著
- 細矢浩志「欧州グリーン・ディールと産業政策の新展開」『産業学会研究年報』第38号、pp.33-55、2023年3月、単著
- 細矢浩志「欧州自動車産業の「脱炭素」化と中東欧」池本修一・田中宏編『脱炭素・脱ロシア時代のEV戦略：EU・中欧・ロシアの現場から』（第2章）、pp.56-88、文眞堂、2022年12月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 細矢浩志「欧州グリーン・ディールと産業政策の新展開」第60回産業学会全国研究大会、2022年6月11日～12日、城西大学、単独

金目哲郎

(1)現在の研究テーマ

- 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 金目哲郎「地域間の財政格差と「ふるさと納税」の純収支に関する検討」『人文社会科学論叢』14号、pp.139-148、2023年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 金目哲郎「財政学からみた、ふるさと納税の現状と課題」弘前大学経済学会第47回大会、2022年10月22日、弘前大学、単独

[講演]

- 金目哲郎「地方圏の都市財政と中心市街地活性化の実践：青森県弘前市を事例に」横浜市立大学都市社会文化研究科セミナー、横浜市立大学、2023年1月17日、単独

小谷田文彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Aapo Jumppanen, Toni Ahvenainen, Urszula Ala-Karvia, Shinichi Hanada, Markku Mattila, Mitsuaki Hasegawa, Fumihiko Koyata, Young-Jun Lee, Sang-woo Park, Mika Raunio, Erkki Välimäki 「Has COVID-19 affected urban-to-rural and rural-to-urban migration patterns?」『Finnish journal of rural studies』30巻2号、pp.39-45、2022年12月、共著

山本康裕

(1)現在の研究テーマ

- 金融政策全般
- 銀行貸出の変動が実体経済に与える影響
- 青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 山本康裕「マネタリーベースの増大が地方の実体経済に与える効果II：西日本編」『人文社会科学論叢』13号、pp.229-260、2022年8月、単著

安中進

(1)現在の研究テーマ

戦前選挙、政治体制

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 安中進『Public Behavioural Responses to Policy Making during the Pandemic: Comparative Perspectives on Mask-Wearing Policies』Routledge、2022年11月、共著
- 安中進『貧困の計量政治経済史』、岩波書店、2023年2月、単著

[論文]

- 安中進、鈴木淳平、加藤言人「福祉国家に対する態度決定要因としての社会保障の普遍性と逆進課税 サーヴェイ実験による検討」『年報政治学』、2022年6月、共著

- Susumu Annaka, Gento Kato 「Can a Constitutional Monarch Influence Democratic Preferences? Japanese Emperor and the Regulation of Public Expression」『Social Science Quarterly』、2022年4月、共著
- Susumu Annaka 「Public Awareness of Mask Usage in 29 Countries in 2020」『Public Behavioural Responses to Policy Making, Routledge』、2022年11月、単著
- Susumu Annaka 「Good democratic governance can combat COVID-19-excess mortality analysis」『International Journal of Disaster Risk Reduction』83巻、103437、2022年12月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究「生活保護制度の包括的データ分析」研究代表者、2022年度～2024年度

公共政策講座

平野 潔

(1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 平野潔「過失犯の共同正犯における「共同義務の共同違反」説一判例の検討を中心に一」『実務と理論の架橋—刑事法学の実践的課題に向けて—』、pp.145-162、2023年2月、単著

[その他]

- 平野潔編「青森県を中心とした地域司法の新たな課題」pp.1-95、2023年3月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 裁判員制度シンポジウム「裁判員裁判に『経験』が及ぼす影響」、弘前大学、2022年11月19日

児山 正史

(1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場（準市場）としての福祉・医療の選択制

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 児山正史「準市場としての医療保険制度（1）」『人文社会科学論叢』13号、pp.261-286、2022年8月、単著
- 児山正史「準市場としての医療保険制度（2）」『人文社会科学論叢』14号、pp.115-138、2023年2月、単著

近藤 史

(1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展
- 生態環境の利用と保全
- 津軽塗の多様性の復権と技術継承

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 葉山, 茂, 白石, 壮一郎, 近藤, 史, 松井, 歩, 新永, 悠人, 佐々木, あすか, 高島, 克史, 林, 彦櫻, 諏訪, 淳一郎「「ともにいること」を手がかりに地域を知る」『フィールドワークという探索活動の可能性』、pp.50-55、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、2023年3月、分担執筆

白石 壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- 移住・移動者とホーム（家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）論など

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 白石壮一郎「Well-being、指標、人類学：開発学におけるWell-being論の展開」弘前大学大学院地域共創科学研究科シンポジウム、2022年12月12日、弘前市、単独
 - SHIRAISHI Soichiro「Concepts and Methods of the Research Project」Kick-off Meeting: A Study of the Career Decisions of Humanities and Social Sciences' Students after the Popularization of Universities in East Africa、2022年8月4日～5日、Makerere University, Kampala、単独
 - SHIRAISHI Soichiro「Comment: Dis-covering Menstruation as Social Phenomena」Diversifying Menstrual Hygiene Management Education in Uganda、2022年9月2日、Kampala、単独
 - SHIRAISHI Soichiro「Comment: Toward Local Histories of Sexuality」Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices、2023年1月28日～29日、東京、単独
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 日本学術振興会二国間交流事業「東アフリカのポスト大学大衆化状況と人社系の進路決定:その考慮事項と選択構造の解明」研究代表者、2022年度～2023年度
 - 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「富の体現、再配分政治に対する実践とアセンブリ形成:アフリカ都市中間層ボトムの研究」研究代表者、2022年度～2025年度
 - 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化」研究分担者、2022年度～2025年度

長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 長谷河亜希子「労働市場におけるフェアネス—競争法の観点から—」『日本経済法学会年報』43号、pp.16-34、2022年9月、単著
- 長谷河亜希子「ミニストップ新契約の優越的地位の濫用該当性について」『中小商工業研究』153号、pp.66-72、2022年10月、単著
- 長谷河亜希子「使用者団体と産業界労組による最低賃金をめぐる団体協約と独禁法—日本港運協会事件・鑑定意見書」『労働法律旬報』2020号、pp.12-23、2022年11月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 長谷河亜希子「労働法と経済法—米国競争当局と公取委の動向を中心に—」労働法と経済法大シンポ研究会、2022年6月24日、オンライン (Zoom)、単独
- 長谷河亜希子「労働市場におけるフェアネス—競争法の観点から」日本経済法学会、2022年10月22日、京都大学、単独
- 長谷河亜希子「プラットフォーム労働とフリーランス新法」データ駆動型社会の法に関する領域横断的研究会、2023年3月11日、オンライン (Zoom)、単独
- 長谷河亜希子「食ベログ事件 (東京地裁判決)」民主主義科学者協会法律部会春合宿商法経済法分科会、2023年3月24日、オンライン (Zoom)、単独

吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 吉村顕真「障害のある年少者の逸失利益算定論をめぐる展開」『不法行為法における人権救済の法理と政策—障害のある年少者の逸失利益算定論をめぐる展開』、pp.119-141、法政大学出版局、2023年3月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 吉村顕真「精神障害者の不法行為における故意・過失判断基準—アメリカ法を手掛かりにして」北海道大学 民事法研究会、

2022年7月22日、北海道大学（web）、単独

- 吉村顕真「不法行為法における人権救済の法理と政策—障害のある年少者の逸失利益算定論」法政大学 人権政策研究会、2022年10月2日、法政大学、単独
- 吉村顕真「障害のある年少者の逸失利益算定の展開——裁判例に着目して」大阪公立大学 民法研究会、2022年11月26日、大阪公立大学、単独
- 吉村顕真「2022年 判例回顧と展望（不法行為法）（法律時報臨時増刊）」末川民事法研究会、2023年1月22日、立命館大学（web）、単独
- 吉村顕真「2022年 判例回顧と展望（不法行為法）（法律時報臨時増刊）」補遺、末川民事法研究会、2023年2月26日、立命館大学（web）、単独

[講演]

- 吉村顕真「損害賠償額から見た人間の価値—障害者の逸失利益格差問題を考える」弘前大学 地域未来創生塾、2023年2月8日、ヒロロ、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「精神障害者の不法な責任を巡る民法上の課題とその対応—アメリカ法を手掛かりに」（2021～2023年度）

(7)共同研究、受託研究など

[共同研究]

- 法政大学ホアソナード記念現代法研究所「実効的な救済の公法学的研究」客員研究員（2020年度～2025年度）

伊 藤 健

(1)現在の研究テーマ

- 違憲審査基準論、憲法訴訟論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 伊藤健「違憲審査における「論証責任」(1)」『人文社会科学論叢』14号、pp.71-113、2023年2月、単著

[その他]

- 伊藤健「あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律19条の憲法適合性 [最高裁判所第二小法廷令和4年2月7日判決 (LEX/DB25571941)]」『新・判例解説 Watch』31号、pp.15-18、2022年9月、単著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 伊藤健「コロナ禍と憲法」2022年度弘前大学地域未来創生塾（第6回）、2023年1月11日、ヒロロ（オンライン併用）、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「違憲審査における論証責任・論証度の役割と違憲審査基準論の再構築」研究分担者、2020年度～2022年度

渋 田 美 羽

(1)現在の研究テーマ

- 中小企業における労働条件決定、フランスにおける労働者の集团的利益代表
- 上記課題を中心とした労働法に関する日仏比較法研究